

# オンライン防災講座

—全国から11名が受講—



共生共助の社会をめざす

# ひかり新聞

2020.11.29  
No.40

一般社団法人  
ひかりプロジェクト

## 「自分の命は自分で守る」をテーマに

講座事務局 橋本敏廣

コロナの時代に、何をすれば社会のお役に立てるか？

そんな思いから「オンライン防災講座」が誕生しました。

この学習を通して、「自然のはたらきを知り」「自分の命は自分で守る」「まちの安全はみんなで守る」防災力を高めることを目的に開催しました。ひかり新聞No.39で開催をお知らせし、案内チラシを同封しました。

事前PRも少なく募

集期間も短いなかでしたが、防災意識の高い女性3名、男性8名、合計11名の方が応募してくださいました。年齢は40代から80代と幅広く、向学心に燃えている人ばかりです。お住まいは、北関東から九州までの広範囲で、オンラインの特徴が活かされました。

Zoomを使用したオンライン講座は私たちも初めてですので、開講前にZoom操作説明会を開催し、Zoomへの接続方法や操作方法を、受講される方々に身につけていただきました。

開催期間は8月5日

### 講座の日程・内容・担当講師

回	開講日	講座	講座
		1時限 (20時~21時)	2時限 (21時~22時)
1	8月5日(水)	(1)近年の自然災害に学ぶ 入田 央	(2)身近な防災対策と自主防災活動 橋本 敏廣
2	8月19日(水)	(3)ボランティア活動、被災者支援から「こども食堂」の取り組みへ 奥原 幹雄	(4)耐震診断と補強 災害とライフライン 阪本 正雄
3	9月2日(水)	(5)避難所運営と仮設住宅 藤原 真久	(6)行政の災害対応 正田 新一
4	9月16日(水)	(7)地震・津波のしくみと被害 地震に関する知見・情報 阪本 正雄	(8)風水害と対策、土砂災害と対策 正田 新一
5	9月30日(水)	(9)災害情報の入手と活用 公的機関の予報・警報 入田 央	(10)被害想定とハザードマップ 橋本 敏廣
6	10月14日(水)	(11)避難と避難行動 津波から身を守る 藤原 真久	(12)都市防災、災害と交通インフラ 藤原 真久
7	10月21日(水)	(13)理解度確認	(14)まとめ ひかりプロジェクトの目指すもの 入田 央

から10月21日まで(隔週水曜日/全7回、20:00~22:00)。  
水曜日の夜、仕事の後、炊事や後片づけの後にもかかわらず、出席率は非常に高く、皆さん熱心に取り組み、ありがとうございました。  
また、6名の講師陣も事前にテキストを作成し、専門知識やノウハウ、経験をフルに活用して熱のこもった講義でした。

# 参加者（受講者・講師）の声

受講者の方に参加の動機や抱負、講師の方には担当分野の講座のポイントや取り組みについて伺いました。



岡田 清陽  
兵庫県姫路市

HPA理事の方より、「防災講座を開くので、参加しませんか」と連絡を頂きました。防災については興味がありました。防災について実践したことがなく、すぐ返事をしました。

オンラインで、懐かしい方々と会話しただりお姿を拜見でき、有意義な講座でした。講義の中で「自分の身は自分で守る」が一番印象に残っています。

ボランティア等できていませんが、できることからコツコツと行いたいと思います。よろしく願います。



辻 秀志  
神奈川県小田原市

この度の「オンライン防災講座」を受けることにしたのは、この春に防災に責任を持つ立場である、地域の自治会長に就いたためです。防災の所見をいろいろ学び、整理し、自然災害に備え、一旦災害が起きた時には、地域の避難活動を指揮できる力を持つ絶好の機会と思ったからです。

新型コロナ対策で注目されている



山本 朝男  
茨城県日立市

「オンラインで学べる簡便さ」も手伝ったこと。講座も無事終了した今、これからの展開に期待しています。

私は、若輩防災士です。地域貢献のために防災の勉強を継続する必要性を感じておりましたので、受講することにしました。オンラインなので、遠く離れていて、お会いする機会の少ない講師の方や受講者の皆様の顔や声を、自宅にいながらパソコン越しに拝させていただき、とても楽しく勉強ができたことに感謝しています。

気象・防災分野でご活躍中の講師陣と、広範囲で充実した講座内容が大きな魅力でした。



久保田 貴美子  
山口県山口市

この度、いろいろな方からお誘いを頂き、防災講座を受講しました。自然災害は誰の身にも起こりうることで。その時、わが身を守るだけでなく、誰かの役に立てる働きができる

といいなあと思います。

そのヒントは身の回りにたくさんあるんだなあと、受講して分かりました。そして、一歩踏み出してみることの大切さも感じています。



西田 幸重  
東京都江戸川区

阪神・淡路大震災、東日本大震災と日本の災害史に名前を残す震災を経験しました。しかし、ただただ経験したということだけに終わっています。

ですから、この経験を体系的に学べたら、また違う視点も生まれてくるのではないかと考え、受講しました。

講師の皆さん、お忙しい中、資料作成など講義の準備、ありがとうございました。



《講師》  
阪本 正雄  
埼玉県所沢市

8月から始まったオンライン防災講座。社会で急速に広まったZoomというツールを使つての講座で、皆初めての経験でした。

私は講師として「耐震診断と補強・災害とライフライン」「地震・津波のしくみと被害、地震に関する知見・情報」の2講座を担当しました。

ゼネコンに勤務していた頃、阪神・淡路大震災の被災地で約半年間、調査や復旧工事を経験し、その後、東京に戻り、急増していた耐震診断や耐震補

## 防災10×7 (第3回)

### 「地震」

#### その時の10のポイント

地震発生時の対応について、皆さんもいる場面でも聞いてこられたと思いますが、ここでさらうい。

#### 《地震時の行動》

##### ① 地震だ！ まず身の安全

揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたときは、身の安全を最優先に行動する。

丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。

#### 《地震直後の行動》

##### ② 落ち着いて 火の元確認 初期消火

火を使っているときは、揺れがおさまってから、あわてず火の始末をする。

・ 出火した時は落ち着いて消火する。

##### ③ あわてた行動 けがのもと

・ 屋内で転倒・落下した家具類や、ガラスの破片などに注意する。

・ 瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので、外に飛び出さない。

##### ④ 窓や戸を開け 出口を確保

・ 揺れがおさまった時に、避難ができるよう出口を確保する。

##### ⑤ 門や扉には 近寄らない

・ 屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。

強の業務に関わりました。従って、今回の防災講座の私の担当は、その頃仕事としてお客様に説明していた内容であり、その頃の資料をベースに今回の講座の準備をしました。講座では、できるだけ分かりやすく説明することを心がけましたが、ご理解いただけたか、いささが不安は残ります。

技術は日進月歩であり、津波など専門外のことや、地震に関する最新の知見など、私自身知らないことも多く、共に学ばせていただいたことはありがたいことでした。



《講師》  
正田 新一  
おしだ しのぶ

大阪府池田市

私自身、地元の消防団活動以外に、これといった防災活動をしてこなかったため、今回の講師は重荷でしたが、初めての「オンライン防災講座」に講師として参加させていただき、また、受講生の皆さんには、つたない講義を聴いていただき、本当にありがとうございました。

講座としては「行政の災害対応」と「風水害と対策・土砂災害と対策」を担当させていただきました。いずれも自分の経験や知識の部分ですが、私なりに再度勉強し、受講生には分かりやすく話すように努めました。

講座のポイントとしては、前者では、災害対策基本法の理解と行政の行っている様々な防災対策の理解。後者では、災害発生時のメカニズムの理解と、行政の発表している水害のハザード

ドマップと水害発生前のタイムラインの把握。土砂災害ではハザードマップの土砂警戒区域に関心を持ち、まず自分の住んでいる地域の状況を確認をすることがだと思います。

今回の講座が、受講生の皆さんの今後の防災活動に少しでも役立てば幸いです。



《主任講師》  
入田 央  
いりだ ちゆう

東京都東村山市

「自分の命は自分で守る」をテーマとした「オンライン防災講座」は、受講者11名、講師6名で2020年8月5日を第一回として始めさせていただきました。ほぼ2週間に1回のペースで10月21日の第7回をもって無事終了することができました。

受講の皆様、長期間の取り組み、本当にご苦労様でした。

この度の「オンライン防災講座」の内容は、『ひかりプロジェクト・ご入会案内』に、次のように書き加えられることになっております。

2020年に入って新型コロナウイルスの広がりで、人とふれあうイベントがことごとく中止となるなか、「自分の命は自分で守る」をテーマに「オンライン防災講座」を開設しました。

私たちができることは限られていますが、自然災害に遭われて困っている人々を支援する、また自然を大切に、さらに次代を担う青少年を育成する、命を守るための防災意

識を高めてもらうなど、今後も取り組んでいきたいと願っております。日頃から、ひかりプロジェクトの活動を支えていただいております皆様、ありがとうございます。

## タオルを備蓄しましょう

近年、台風・洪水等の被害が全国的に多発しています。復旧作業のためになるのがタオルです。新品もしくは使用済みのフェイスタオルがとて役立ちます。皆さまの自宅でも余っているタオル（新品、使用済み）を、万が一の時のために備蓄されることを提言いたします。

今後起きるであろう災害に備え、HPAとしても情報を共有し、必要な時、必要な所へ提供していきたいと考えております。被災地からタオルの要請があった場合は、皆さまにご連絡させていただきますので、その際はご協力をお願いいたします。

## 《地震後の行動》

- ⑥ 火災や津波 確かな避難
  - ・ 地域に火災の危険がせまり、身の危険を感じたら、一時集合場所や避難場所に避難する。
  - ・ 沿岸部では、大きな揺れを感じたり津波警報が出されたら、高台などの安全な場所にすばやく避難する。
- ⑦ 正しい情報 確かな行動
  - ・ ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。
- ⑧ 確かめ合おう わが家の安全 隣の安全を確認する。
- ⑨ 協力し合って 救出・救護
  - ・ 倒壊建物や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。
- ⑩ 避難の前に安全確認 電気・ガスを切る。ガスの元栓を締めて避難する。

## 救助活動三種の神器 配備中



大規模災害時には、家屋倒壊などにより生き埋めとなって、自力で脱出することができない人が多数発生するおそれがあります。

救助活動のために、倒壊した建物の屋根やドアを壊して進入路を切り開いたり、要救助者の上になっている家具などを持ち上げたりする必要があります。そこで「救助活動の三種の神器」と言われているのが「パール、のこぎり、ジャッキ」です。

ひかりプロジェクトでは、まず4名の理事にそれらの道具を配備し、いざというときに使えるようにしました。配備拠点：茨城県稲敷市、東京都文京区、三重県津市、大阪府池田市。

「移動図書館はいつから再開しますか?」「再開の日に取材に行ってもいいですか?」

新型コロナウイルス第1波の時「緊急事態宣言」が全国に発せられ、移動図書館も活動を自粛しました。その後「宣言」が解除されたので、再開に向けて準備を行っていた時に、突然NHKの担当者から電話がかかってきました。聞けば、コロナ禍で自粛していたボランティア活動が再開するストーリーを取材したい、ということでした。

NHKからは、これまで何度か取材を受けていましたが、今回は移動図書館をメインに取材をしたいということでした。

移動図書館の巡回先は、熊本地震で

被災した人たちが住む仮設団地です。図書館の利用者の方の中には、カメラに映りたくないという人もいますので、そうした人たちへの配慮を条件に取材を受けることにしました。

取材は、巡回先である熊本県下の2か所の仮設団地、図書を保管している私の住居、利用者の方が住んでおられる災害公営住宅などで、計4日間に及びました。

出来上がった番組は、夕方の熊本のニュース番組で、約5分間に取りまとめて放送されました。その後、この番組は、九州管内のNHKでも放送されたようです。

実際に放送された内容を紙面で紹介できないのは残念ですが、私が嬉しく

感じた点を一つ紹介します。

テレビ番組では、テロップといわれる文字が画面に映し出されますが、そのテロップに「被災者を癒す移動図書館」との文字が、5分間ずっと画面右上に映し出されました。

これは、私が注文したわけではなく、番組の担当者が私たちの活動を見て「被災者を癒す」活動だと受け取ってくれたからです。

私たちは、わずかながらでも、被害に遭われた方々のお役に立ちたいと願って、4年間活動を進めてきました。その活動が人々の癒しへと展開しているとしたら、これは、大変ありがたいと思っています。

NHKのアナウンサーも私たちの願いを代弁してくれていますが、私たちは、届ける本を待っていてくれる人がいる間は、活動を続けたいと願っています。

さらに、度重なる自然災害や新型コ

ロナウイルスによって、厳しい生活を余儀なくされている方々がたくさんおられます。そうした方々の心に寄り添う活動が全国で生まれ、展開できたらと思います。

みなさま方には、引き続きご支援をいただきたく、お願いいたします。

### 編集後記

▼手探りで始めたオンライン防災講座ですが、好評価を頂きながら終了しました。今後も内容や方法に関してよりよいものを検討し、第2回も開催していきたいと考えています。

▼救助活動の「三種の神器」が整えられる方は事務局にご連絡ください。状況に応じて対応させていただきます。これをかわないことが、一番いいのですが……。

▼タオルの備蓄に関して、皆さまの近隣での要請に対応していただくのも災害対策の第一歩です。「新品」と「使用済み」を仕分けして保管しておく活用しやすいです。

「NHK熊本」の取材を受ける(2020年6月)



「みんなの喜ぶ顔が(続ける)源」と語る橋本さん